

環境活動レポート

【期間 2010年 4月 ～ 2011月 3月】



都生工業株式会社

2011年4月28日 作成

1. 当社概要

認証登録範囲は全事業所を対象とする。

(1) 事業所名及び代表者名

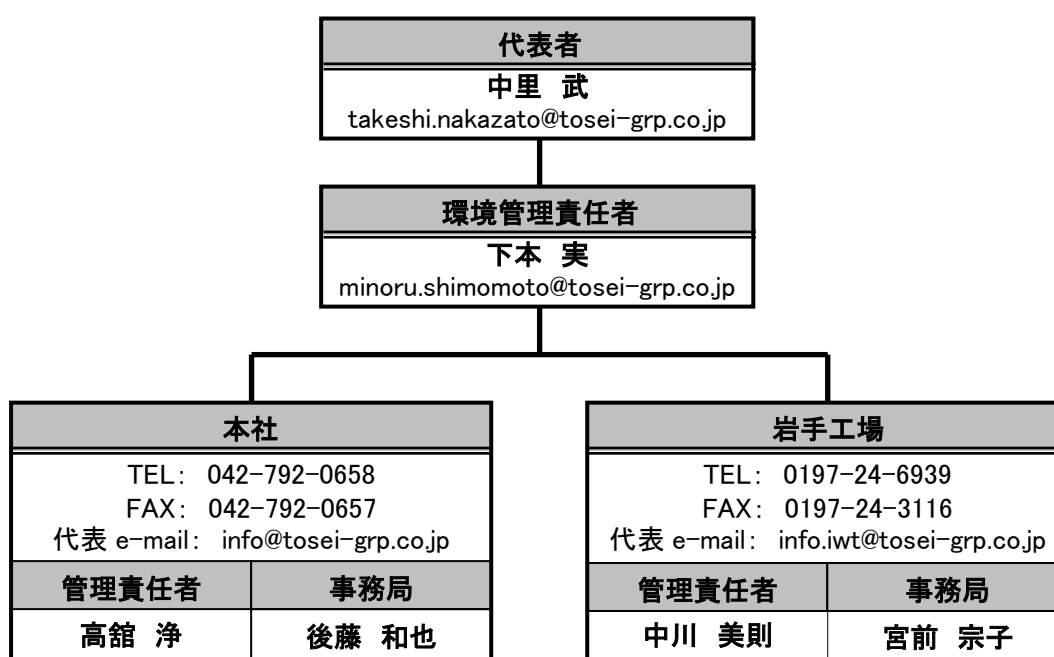
都生工業株式会社 代表取締役 中里 武

(2) 所在地

本 社 〒194-0035 東京都町田市忠生 1 丁目 28 番地 5

岩手工場 〒023-0132 岩手県奥州市水沢区羽田町字窪 34 番地

(3) 環境管理責任者及び担当連絡先



(4) 事業内容

本 社 各種ダンボール製函、発砲スチロールカット、梱包資材販売
 岩手工場 農機部品製造(鍛造)

(5) 事業規模

資本金 1,000 万円

	本 社		岩手工場	
	2009 年度	2010 年度	2009 年度	2010 年度
従業員数 [人]	12	13	19	19
売上 [百万円]	154.6	173.1	209	176
床面積 [㎡]	1,067	1,067	1,106	1,106
敷地面積 [㎡]	1,928	1,928	4,834	4,834

2. 環境方針

当社は次の環境方針に基づき環境活動を行っていきます。

基本理念

資源循環型社会を推進している都生工業株式会社では、ダンボールケース・梱包資材設計／製造・農機部品設計／製造における事業活動を通して、常に環境負荷の低減化を考えて行動します。

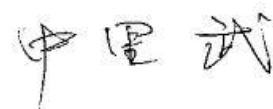
環境行動

1. エコアクション 21 環境経営システム構築に取組み、その実施運営において、環境関連法令・条例等を厳守するとともに、地域・業界・顧客の環境保全に関する要求事項に配慮し、環境活動の持続的な改善を進めていきます。
2. 環境目標及び環境取組計画として下記事項を重点項目に設定し、必要に応じてその内容を見直し、環境方針に整合した環境行動を実施します。
 - (1) 電力、燃料等の使用量を削減し、二酸化炭素排出量軽減のため、省エネルギー化を推進する。
 - (2) 適切な上水使用を実践し、総排水量の削減を推進する。
 - (3) 廃棄物を徹底的に分別し、古紙リサイクルを推進する。
 - (4) 化学物質(本社：酢酸ビニル、岩手工場：ニッケル)の使用量の把握と管理を行う。
 - (5) ダンボール箱製造工程における端材を再利用し、廃棄物量を削減する。
 - (6) グリーン購入を促進する。
3. 事業を通じ、資源循環型社会構築に貢献するため、エコアクション 21 環境経営の実施状況を内外に報告する。
4. 都生工業株式会社および社外にこの環境方針を周知する。

平成 22 年 9 月 4 日

都生工業株式会社

代表取締役社長



3. 環境目標

(1) 主な環境負荷の実績

環境目標設定のため過去 3 年間に遡り、現状の環境に対する負荷状況を本社、岩手工場に分けて調査した。

① 本社

		2007 年度	2008 年度	2009 年度
CO ₂ 排出量 [kg-CO ₂]		53,727	48,737	47,222
内 訳 [%]	電力	74.9	73.8	60.8
	ガソリン	11.7	11.8	19.1
	軽油	13.0	14.0	19.9
	L P G	0.4	0.4	0.2
廃棄物排出量 [t]		15.02	15.07	9.94
上水使用量 [m ³]		※なし	※なし	6.7

※本社では地下水のみを利用していたため、上水使用量の記録がありません。

地下水については 2009 年 9 月から流量計を設置。

上水については 2010 年 3 月に設置したため、上記記録は 3 月のみ。

② 岩手工場

		2007 年度	2008 年度	2009 年度
CO ₂ 排出量 [kg-CO ₂]		389,187	452,468	401,148
内 訳 [%]	電力	18.9	16.0	17.5
	重油	60.2	65.9	60.1
	灯油	2.7	1.3	1.7
	L P G	16.5	15.6	19.3
	ガソリン	0.7	0.5	0.7
	軽油	0.2	0.2	0.2
	廃油	0.8	0.5	0.5
廃棄物排出量 [t]		68.53	59.23	72.29
上水使用量 [m ³]		740	592	497

(2) 環境目標選定とその理由

基準年 2008 年度実績値より、2010 年度、中長期の目標値を設定した。

- ① 本社では CO₂ 排出量のうち、電力 75%、ガソリン、軽油で 25%程度であることがわかった。
LPG は使用しているが、他のエネルギー項目より消費比重が低いため、環境目標は設定しない。
(計測は実施する)
- ② 岩手工場では CO₂ 排出量のうち、重油 66%、電力 16%、LPG16%程度であることがわかった。
ガソリン、軽油は使用しているが、他のエネルギー項目より消費比重が低いため、環境目標は設定しない。(計測は実施する)
- ③ 本社での水道使用量に関しては生活用で消費比重が低いため、環境目標値を設定せずに活動する。
- ④ 年間を通してのエコアクションへの取組実績がないため、仮運用期間の目標値を 3 カ月に止めずそのまま次年度の設定とした。
- ⑤ 2009 年度仮運用期間(2009 年 12 月～2010 年 3 月)において、本社ではガソリン消費量削減目標が達成できなかった。主な原因として営業車 1 台増車したことがあげられる。
達成できなかった対策として、2010 年 8 月よりフォークリフトをガソリンエンジンから電気充電式を導入した。これにより目標値据え置きとし、2009 年度と同様にして取り組むこととした。
- ⑥ 岩手工場では集中生産方式により重油の消費を削減する。
- ⑦ 本社ではセビアン-A(ダンボール接着糊)に含まれる酢酸ビニル、岩手工場ではニッケルが PRPT 制度対象化学物質となるため、これらを管理徹底し、使用量を把握する。
- ⑧ 本社において製品製造時に発生するダンボール端材を利用し、他製品の製造を行い、廃棄物量の削減を図る。

(3) 環境目標

1. 本社

環境目標	基準値 2008 年度実績 2008 年 9 月～ 2009 年 8 月	目標 (対基準年) 通年 2010 年度	中長期目標		
			2011 年度	2012 年度	2013 年度
1. CO ₂ 排出量削減 電力消費量削減[kWh]	79,204	1%削減 78,411	2%削減 77,619	3%削減 76,827	3%削減 76,827
ガソリン消費量削減[ℓ]	3,617	5%削減 3,436	5%削減 3,436	7%削減 3,363	7%削減 3,363
軽油消費量削減[ℓ]	3,865	5%削減 3,671	5%削減 3,671	7%削減 3,594	7%削減 3,594
2. 廃棄物排出量削減 一般廃棄物量削減[kg]	640	5%削減 608	7%削減 595	10%削減 570	10%削減 570
紙・ダンボール リサイクル[%]	100	100% 100	100% 100	100% 100	100% 100
端材ダンボール商品化 による廃棄物削減[kg]	実測なし	200kg 削減 200	300kg 削減 300	300kg 削減 300	400kg 削減 400
3. 水道使用量削減	実測なし	節水を 心がける	節水を 心がける	節水を 心がける	節水を 心がける
4. 化学物質管理・ 使用量の把握	実績なし	管理徹底	管理徹底	管理徹底	管理徹底
5. グリーン購入の促進	実績なし	エコマーク商品 1 品購入	エコマーク商品 3 品購入	エコマーク商品 5 品購入	エコマーク商品 5 品購入

2. 岩手工場

環境目標	基準値 2008 年度実績 2008 年 9 月～ 2009 年 8 月	目標 (対基準年) 通年 2010 年度	中長期目標		
			2011 年度	2012 年度	2013 年度
1. CO ₂ 排出量削減 電力消費量削減[kWh]	191,070	1%削減 189,159	2%削減 187,248	2%削減 187,248	3%削減 185,337
重油消費量削減[ℓ]	110,080	3%削減 106,777	3%削減 106,777	5%削減 104,576	5%削減 104,576
L P ガス使用量削減[kg]	23,575	1%削減 23,339	2%削減 23,103	2%削減 23,103	3%削減 22,867
2. 廃棄物排出量削減 一般廃棄物量削減[kg]	310	3%削減 300	5%削減 294	7%削減 288	10%削減 270
紙・鉄屑 リサイクル[%]	100	100% 100	100% 100	100% 100	100% 100
3. 水道使用量削減[m ³]	592	4%削減 568	4%削減 568	4%削減 568	5%削減 562
4. 化学物質管理・ 使用量の把握	実績なし	管理徹底	管理徹底	管理徹底	管理徹底
5. グリーン購入の促進	実績なし	エコマーク商品 1 品購入	エコマーク商品 3 品購入	エコマーク商品 5 品購入	エコマーク商品 5 品購入

4. 環境活動計画と実績

(1) 環境活動取組項目

当社は環境活動における環境への負荷を軽減するため以下の取組を実施し、その達成状況、活動実施状況を毎月エコアクション会議で報告すると共に、確認と見直しを実施しています。

項 目	適 用	
	本社	岩手
(1) CO₂排出量削減		
①休憩時間における工場内設備の電源OFF	○	○
②不要照明、電気製品の電源OFF（社内に節電掲示）	○	○
③作業終了時の電源OFF、消灯確認	○	○
④不要天井蛍光灯の排除	○	—
⑤エアコン温度管理の徹底の実施	○	—
⑥商品配送・収集計画の効率化	○	—
⑦車両点検整備の実施	○	—
⑧エコドライブの実施	○	—
⑨重油使用量を毎日計測し、製造商品と使用量を把握	—	○
⑩効率の良い製造計画	—	○
(2) 廃棄物排出量削減		
①廃棄物分別の徹底	○	○
②廃棄物量計測の実施し、廃棄物量を把握	○	○
③両面印刷・縮小印刷・裏紙使用の実施	○	○
④古紙・ダンボール屑・鉄屑のリサイクル徹底	○	○
⑤ダンボール端材を再利用し、廃棄物量を削減	○	—
(3) 水道使用量削減		
①社内節水掲示により手洗い時の節水を徹底	○	○
②冷却水の節水を徹底	—	○
(4) 特定化学物質の管理徹底と使用量の把握		
①酢酸ビニル	○	—
②ニッケル	—	○
(5) グリーン購入促進		
①エコマーク・グリーンマーク商品購入の拡大	○	○
②コピー用紙（エコマーク商品）は白色度を下げたものを購入	○	○

(2) 環境活動実績

① 本社

環境目標	目標値	実績値	評価
1. CO ₂ 排出量削減			
電力消費量削減[kWh]	78,411	79,089	×
ガソリン消費量削減[ℓ]	3,436	3,320	○
軽油消費量削減[ℓ]	3,671	3,378	○
2. 廃棄物排出量削減			
一般廃棄物量削減[kg]	608	252	○
紙・ダンボールリサイクル[%]	100	100	○
端材ダンボール商品化による廃棄物削減[kg]	200	241	○
3. 水道使用量削減	節水を心がける	実施 地下水:124.9ℓ 上水 : 86.6ℓ	○
4. 化学物質管理・使用量の把握	使用量把握 管理徹底	実施 酢酸ビニル含有量 540g	○
5. グリーン購入の促進	エコマーク商品 1品購入	実施 年6回6品目	○

② 岩手工場

環境目標	目標値	実績値	評価
1. CO ₂ 排出量削減			
電力消費量削減[kWh]	189,159	192,644	×
重油消費量削減[ℓ]	106,777	99,120	○
LPガス消費量削減[kg]	23,339	19,554	○
2. 廃棄物排出量削減			
一般廃棄物量削減[kg]	300	245	○
紙・鉄屑リサイクル[%]	100	100	○
3. 水道使用量削減[m ³]	568	204	○
4. 化学物質管理・使用量の把握	使用量把握 管理徹底	実施 ニッケル使用量 900kg	○
5. グリーン購入の促進	エコマーク商品 1品購入	実施 年8回12品目	○

5. 環境活動の取組結果の評価と今後の対応

(1) 本社

① CO₂排出量削減

電力使用量が目標値を達成できなかった。

1月・8月の使用量が高く、この状況は例年であることから、エアコン使用が大きく影響していると思われる。今年夏期間は電力不足が予想されることもあり、目標に向けての更なる対策が必要である。

ガソリン使用量においては8月から電気充電式フォークリフト導入により効果が出ている。旧フォークリフトで4月～7月の期間に196ℓ使用していることを考慮すると、今後の消費対策として期待できる。但し、これによる使用電力がどの程度あるか把握する必要もあり、来年度の目標値設定に盛り込みたい。

② 廃棄物排出量の削減

目標達成できた。期間途中から古紙リサイクル量の測定漏れ箇所があり追加した。計画管理が徹底されていなかった点を反省する。

端材ダンボールを使用し商品化することにより、全体の古紙リサイクル量の3%程度減少した。計画・実施が9月からであったため、年間通してどの程度になるか今後期待する。

③ 水道使用量の削減

目標値はないが今後とも節水を心掛けるよう各自周知徹底する。

④ 化学物質管理・使用量の把握

保管管理、購入使用量を記録するように項目を設けた。

項目追加に伴い、作業員が化学物質に対する危険意識を持てるようになった。

⑤ グリーン購入

在庫状況により毎月購入が必要ないため、月に1品の購入は出来なかったが、今後品目が増えるように選定し、グリーン購入を推進する。

(2) 岩手工場

① CO₂ 排出量削減

電力使用量が目標値を達成できなかった。

要因としては酷暑、空気清浄機の導入などが考えられる。

効率の良くなるよう工程、生産数量の厳守を徹底した。

3月には震災の影響により生産数が減少したため、各エネルギー使用量は減少している。

② 廃棄物排出量の削減

目標は達成できたが、設備の破損により耐火物の排出量が増えた。今後も無駄な仕事を減らし削減に努力する

③ 水道使用量の削減

節水の徹底を行い目標値は達成できた。さらに節水を心がけ今後も努力していきたい。

④ 化学物質管理・使用量の把握

在庫、保管、使用料記入により把握できている。

⑤ グリーン購入

在庫があり、購入をしない月もあったが、購入の際はグリーン購入を念頭に置き、購入する。月毎1品は達成できなかったが、年間12品購入できたので、今後もグリーン購入を推進する。

(3) 次年度の取組内容

取組項目は本年度と同様の項目に取り組むこととする。

また事業内容に関連する環境活動項目については随時内容検討の上、新規に追加していきたい。

6. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

弊社の遵守すべき環境関連法規、条例を確認した結果、違反のないことを自主的に確認した。

なお、これら法規制に関する関係当局からの違反の指摘、及び関連する訴訟は過去3年間ありません。

7. 代表者による全体の評価と見直しの結果

【開催日】

2011 年 5 月 7 日

【出席者】

代表取締役、環境管理責任者、本社社員

【開催場所】

本社 3 階

【議事内容】

残念ながら、本社、岩手工場ともに電力消費量削減の目標値達成には及ばなかった。

目標値設定は妥当であると判断している。全員が環境活動に関心を持ちながら業務遂行しているが、もう少し設定数値を意識して活動してほしい。

3月の震災による原発事故の影響で来期の夏季電力不足は免れないため、今まで以上に削減に努力が必要である。夏季計画節電15%実現にあたり、現場のサマータイムの導入等も考慮する必要があるかもしれない。しかしながら、製造現場だけの節電には限界あり、事務所側のエアコン設定や細かな節電も不可欠である。

岩手工場においては被災により、生産にかなりの影響があった。計画的な集中生産を実施するため、営業活動も併せて事前受注の努力も必要となる。